

2015年6月23日

横浜ゴム、福島県相馬市で「平成の杜」植樹祭を開催

横浜ゴム（株）は公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」と共催で、7月4日に福島県相馬市の相馬光陽サッカー場で『相馬光陽サッカー場「平成の杜」植樹祭』を開催する。当日は横浜ゴムの従業員約50名に加え、同公益財団法人理事長の細川護熙元首相、立谷秀清相馬市長、相馬市在住のサッカー好きの子供たち、さらに一般公募するボランティア*の合計約1,000人でサッカー場の外周に6,000本の苗木を植樹する。なお、横浜ゴムでは植樹用の苗木7種1,786本を提供する。植樹後には相馬市在住の小学1～3年生を対象にしたサッカー教室も開催する予定。

*参加申込はWebサイト (http://greatforestwall.com/volunteer/volunteer_wanted/souma_kouyou.html) からお願いします

横浜ゴムでは創業100周年にあたる2017年までに国内外の全生産拠点に50万本を植樹する「YOKOHAMA千年の杜プロジェクト」を宮脇昭横浜国立大学名誉教授の指導の下、2007年から進めている。宮脇氏は東日本大震災以後、東北地方の太平洋沿岸およそ300キロメートルに震災ガレキを再利用して防潮林を築き、将来津波が発生した際の減災に貢献する「いのちを守る森の防潮堤」構想を提唱した。横浜ゴムではこうした宮脇氏の考えに賛同、「いのちを守る森の防潮堤」のモデルケースとして岩手県上閉伊郡大槌町が進める「鎮魂の森」づくりを2012年から支援しており、今年の5月23日に4期目の「平成の杜」植樹会を開催し、これをもって大槌町での植樹が完了した。横浜ゴムでは「平成の杜」づくりを継続していく考えで、今回「相馬光陽サッカー場」で「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」と共催で「平成の杜」植樹祭を開催することとした。

一方「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」は、2012年に細川元首相や宮脇氏の呼び掛けで設立された財団。東日本大震災で被災した青森県から福島県までの太平洋沿岸部に、震災ガレキと土を混ぜて高さ5m程度の盛土を築き、その上にシイ・タブ・カシなどの常緑広葉樹を植樹し「いのちを守る森や防潮堤」を作る活動に取り組んでいる。これまで宮城県仙台市若林区荒浜や岩沼市、福島県南相馬市などで植樹やドングリ採種を行っており、2015年1月までに植樹本数は138,600本、ドングリ採種数は200,000粒、ボランティア参加者は延べ16,515名を数える。

〈開催概要〉

- 名称：相馬光陽サッカー場「平成の杜」植樹祭
- 日時：平成27年7月4日（土）10：30～15：00
- 場所：相馬光陽サッカー場（〒976-0005 福島県相馬市光陽3丁目3-1）
- 共催：横浜ゴム株式会社、公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」
- 後援：相馬市
- 協力：（株）湘南ベルマーレ、（株）AC福島ユナイテッド
- 植樹本数：6,000本
- 出席：〈相馬市〉
立谷秀清市長
〈瓦礫を活かす森の長城プロジェクト〉
細川護熙理事長、岡田康彦理事、藤原一繪評議員（植樹指導）、川瀬修平監事
〈横浜ゴム〉
森田史夫CSR本部長、
〈出演〉
ルー大柴氏、くまモン
- スケジュール： 10：30 開会式（黙祷・挨拶・植樹指導）
10：50 植樹開始
11：50 植樹終了
12：00 昼食・アトラクション
13：00 サッカー教室
15：00 終了
- ボランティア募集人数：1,000名
※参加申込：http://greatforestwall.com/volunteer/volunteer_wanted/souma_kouyou.html
- 参加協力費：1,000円／1名（相馬市在住の方は無料）
- 持ち物：リュック、動きやすい服と靴、帽子、飲み物、タオル、軍手、雨具、スコップ、昼食
- 「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」公式Webサイト：<http://greatforestwall.com/>

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：木下
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570